

第9回「貧困、飢餓をなくし地球環境を守る分科会」
第3回「SDGsに貢献する金融商品に関するワーキング・グループ」
議事要旨

日 時：	平成30年12月12日（水）午前10時～11時30分
場 所：	日本証券業協会 第1会議室

次 第

1. 欧州と世界のグリーンファイナンスの発展
【ゲストスピーカー】経済協力開発機構（OECD）事務次長 河野 正道 氏
2. 新興国市場の金融機関を対象とした IFC のグリーンボンド・ファンド - 投資の促進と発行の活発化
【ゲストスピーカー】国際金融公社（IFC）CIO Jean-Marie Masse 氏、
同 シニア・インベストメント・オフィサー 小出 治子 氏
3. ICMA のグリーンボンド原則及び Executive Committee 等における議論のアップデート
【ゲストスピーカー】国際資本市場協会（ICMA）ディレクター Peter Munro 氏
4. 「貧困、飢餓をなくし地球環境を守る分科会」の検討状況等について

議 事

1. 欧州と世界のグリーンファイナンスの発展

経済協力開発機構（OECD）事務次長 河野 正道 様より、資料1に基づき、欧州と世界のグリーンファイナンスの発展についての説明が行われた。

2. 新興国市場の金融機関を対象とした IFC のグリーンボンド・ファンド - 投資の促進と発行の活発化

国際金融公社（IFC）CIO Jean-Marie Masse 様より、資料2に基づき、新興国市場の金融機関を対象とした IFC のグリーンボンド・ファンドについての説明が行われた。本説明に対する主な意見は以下のとおり。

○主な意見等

- ・IFC のグリーンボンド・ファンドへ日本からの投資が無いという理由については、BB+と

いう格付が要因ではないか。日本の場合、BBB+以上の債券が一般的に流通している。

- BB+という点はハードルの一つ。ただ、本ファンドはシニアトランシェのみを切り売りするスキームと認識しており、シニア部分の格付が投資適格以上であれば、ハードルは一つクリアできる。また、エマージング市場への投資という観点だと、投資家によっては、各国の信用リスクを個別に確認しなければならない先も存在すると認識しており、様々な国の債券を対象とするファンドへの投資は難しくなる可能性がある。通貨はどうなっているのか。

→シニアトランシェの格付はBBB+である。通貨は、米ドル建てと、ユーロ建てがある。(IFC)

→欧州では年金基金は投資適格でないと投資できないので、この商品は魅力的である。年金基金にとっては、退職金支払い用の資金確保が課題となるなか、この金融商品は新興国のイールドをブリッジするものであり、年金の長期的な支払いをカバーする4.3%という水準に年金基金も興味を持っている。また、欧州の年金基金はファンドマネージャーを使わずに自ら運用を行うが、新興国への投資の場合にはファンドマネージャーを入れるべきとされる。投資規模1兆ドル以上のエクスポージャーを持つ場合、インハウスでは全ての国別リスクを調査できないので、分散された資産の仲介役としてのファンドマネージャーが必要になってくる。この点、本ファンドでは分散投資はアムンディに委託している。ポートフォリオは50か国の110の発行体による115の証券を組み込んでいる。その21%がソブリン債、79%は新興国金融機関債であり、また、13本のグリーンボンドが含まれている。ポートフォリオの中でデフォルトがあったとしても、ジュニアトランシェ等には10%のクレジットエンハンスメントが設定されているので、デフォルト分を吸収する余力がある。金利分は定期的にキャッシュアウトすることもできるが、基本的に再投資されるので、エンハンスメントは増えてくる。このようにクレジットに関する措置がしっかりなされているのが特徴である。(IFC)

→今回初めてファンドの詳細について知ったので、しっかりと社内周知していきたい。

3. ICMAのグリーンボンド原則及びExecutive Committee等における議論のアップデート

国際資本市場協会（ICMA）ディレクター Peter Munro 様より、資料3に基づき ICMA のグリーンボンド原則及び Executive Committee 等における議論のアップデートについての説明が行われた。本説明に対する主な意見は以下のとおり。

○主な意見等

- 日本の証券業界という立場から、ICMA グリーンボンド原則のWGへどのようにコメントを発信していくかは課題である。
- 日証協もグリーンボンド原則のオブザーバーとして登録しているが、本分科会、本WGでいただいたご意見を今後しっかり発信して参りたい。(事務局)

4.「貧困、飢餓をなくし地球環境を守る分科会」の検討状況等について

本分科会 荻野主査より、資料4に基づき本分科会の検討状況等についての説明が行われた。

(注) スピーカーコメントは事務局拙訳

以 上

本件に関するお問い合わせ先：SDGs 推進室（03-6665-6783） 本議事要旨は暫定版であり、今後内容が一部変更される可能性があります。
--